



南牧村立なんもく学園 学校評価

令和7年7月実施(第1回)

令和7年度第1回の学校評価アンケートの実施に際しまして、ご協力ありがとうございました。アンケートの集計ができましたのでお知らせいたします。

なんもく学園では、アンケートの結果から改善策を考え取り組んでまいります。今後ご支援、ご協力をお願いいたします。

※【前】は前期課程児童への設問

評価の観点	評価項目		方 策	具体的数値目標	評価のための設問	「あてはまる」「概ねあてはまる」に回答した割合 80%以上:A 50%以上:B 50%未満:C			
						保護者	児童生徒	職員	改善策
確かな学力の向上	1	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	児童生徒の探究意欲を喚起する「めあて」の設定、児童生徒同士の対話を中心とした思考を深める「授業展開」、自らの主体的な家庭学習につなげる「まとめ」と「振り返り」を日常化し、課題解決的・体験的な学習活動に努める。	保護者と児童生徒、学校の80%以上が、授業が分かると答えている。	・(お子さん、あなた、児童生徒は)授業の内容を理解していますか。 ・あなたは、授業の内容が分かっていますか。【前】	A	A	A	引き続き、児童生徒の探究意欲を喚起する「めあて」の設定、児童生徒同士の対話を中心とした思考を深める「授業展開」を工夫し、主体的な家庭学習につなげる「まとめ」と「振り返り」をより具体化することで、学習習慣の定着を図るとともに、児童生徒が「自己決定」「試行錯誤」できる授業展開を模索していく。
				学校の80%以上が、「基礎基本」「学習習慣の定着」を基盤とした「主体的」な学習活動をしていると答えている。	・学校は「基礎基本」「学習習慣の定着」を基盤とした「主体的」な学習活動をしていますか。	/	/	A	
	2	学習における個別最適化の実現	児童生徒の個性や能力に配慮し、授業中の個別指導を充実させ、学力向上につなげる。	保護者と児童生徒、学校の80%以上が、個別最適な学びと協働的な学びが充実していると答えている。	・(お子さん、あなたは)自分に合った学び方をしたり、友達と協力して学び合ったりしていますか。 ・あなたは、自分から進んで学習に取り組んだり、友達と協力して学習を進めたりしていますか。【前】	B	A	/	引き続き、児童生徒一人一人の特性や学習進度・学習到達度等に応じて、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行っていく。
			I C Tの有効活用により、個別最適な学びと協働的な学びを充実させた授業改善に取り組む。		・学校は、個別最適な学びと協働的な学びを意識して授業を行っていますか。	/	/	A	
	3	外国語教育に特化した授業計画の実践	英語のコミュニケーション能力をより高めるために、ALTとのやりとりや英検を積極的に活用する。	保護者と児童生徒、学校の80%以上が、ALTや英検を活用して、英語でコミュニケーション能力を高めていると答えている。	・(お子さん、あなた、児童生徒は)外国語の先生と話をすることができていますか。	B	B	A	A L Tを活用し、日常的に英語を用いてコミュニケーションを図る機会を意図的に作り、児童生徒のコミュニケーション能力を高める学習活動を継続して行う。
豊かな人間性の育成	4	互いに認め合い、郷土を愛する心の育成	児童生徒一人一人が尊重され、自己存在感や自己有用感を実感できる意図的な活動をすすめ、思いやりや協調性を育み、互いに認め合う温かな集団づくりに取り組むとともに、郷土に誇りと愛着を抱く心の教育を推進する。	保護者と児童生徒、学校の80%以上が、互いに認め合いながら、自己存在感や自己有用感をもって学校生活を送っていると答えている。	・(お子さん、あなた、児童生徒は)相手の気持ちを考え、自分や相手を大切にしながら過ごしていますか。	A	A	A	引き続き、お互いに認め合いながら自己存在感や自己有用感をもって学校生活を送れるようにしていく。全員が自己存在感や自己有用感を実感できるよう、それぞれの役割をもたせながら問題解決をしていく活動を積極的に取り入れていく。
	5	社会性の育成	各種学校行事や地域、関係団体との交流等を通して、価値ある体験活動を推進し、自律心や創造力、協調性等の社会性の育成を図る。	保護者と児童生徒、学校の80%以上が、学校行事等において、地域や関係団体との交流を通して、児童生徒の社会性を育成することができていると答えている。	・(お子さん、あなた、児童生徒は)地域と交流することで、社会性が育っていますか。 ・あなたは、地域の方と進んで話をしたり活動したりしていますか。【前】	A	A	A	自分と地域のつながりを意識できるよう、各教科と地域教材を関連付けた授業を計画、実施し、地域人材を講師として積極的に活用していく。
	6	学校図書館等の利活用	読書の励行や学校図書館の利用など、児童生徒が進んで読書に取り組める環境を整え、読書に親しむ習慣づくりに努める。	保護者と児童生徒、学校の80%以上が、児童生徒が読書に進んで取り組んでいると答えている。	・(お子さん、あなたは)読書に進んで取り組んでいますか。	B	B	/	家庭において保護者と児童生徒が一緒に読書に取り組める活動を提案、実施していく。また、授業と関連付けた図書館の積極的な活用を行う。
					・学校は、読書の励行や学校図書館の利用など、児童生徒が進んで読書に取り組める環境を整え、読書に親しむ習慣づくりに努めていますか。	/	/	A	
	7	各種教育と関連させた道徳の実践	道徳の時間を「要」とし、道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を横断的に関連付け、全校態勢で教育活動全体を通して心に響く道徳教育を推進する。	学校の80%が、道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を関連付け、心に響く道徳教育を推進していると答えている。	・学校は、道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を関連付け、心に響く道徳教育を心がけていますか。	/	/	A	引き続き、学年進行に応じて地域や環境と関わり、全ての教育活動を通して道徳教育を進めていく。
	8	キャリア教育全体計画に基づいた指導の充実	キャリア教育全体計画に基づき、組織的・系統的に望ましい勤労観や職業観の育成に努め、自ら未来を切り開き社会に貢献しようとする態度や意欲を育てる。	保護者と児童生徒、学校の80%以上が、キャリアパスポート等を活用し、自ら未来を切り開き社会に貢献しようとする態度や意欲を育っていると答えている。	・(お子さん、あなた、児童生徒は)行事や授業を通して、自分の生き方を考えるとともに、社会に貢献しようとする思いが育ちましたか。 ・あなたは、学習したことを生活に生かしていますか。【前】	B	A	A	キャリアパスポートを計画的に活用し、将来を見据え、児童生徒と保護者が共に見通しをもって進路を考えられる取組を積み重ねていくとともに、子供たちが社会貢献への意欲を高められるようにする。



南牧村立なんもく学園 学校評価

令和7年7月実施(第1回)

令和7年度第1回の学校評価アンケートの実施に際しまして、ご協力ありがとうございました。アンケートの集計ができましたのでお知らせいたします。

なんもく学園では、アンケートの結果から改善策を考え取り組んでまいります。今後ご支援、ご協力をお願いいたします。

※【前】は前期課程児童への設問

評価の観点	評価項目		方 策	具体的数値目標	評価のための設問	「あてはまる」「概ねあてはまる」に回答した割合 80%以上:A 50%以上:B 50%未満:C			
						保護者	児童生徒	職員	改善策
健やかな体づくり	9	主体的で健康的な生活習慣の定着	児童生徒が自ら考え行動し、主体的に健康的な生活を送ることができるよう指導していく。また、学校医、学校歯科医、栄養士、保健師等との連携を密にして、保健・健康教育を充実させる。	保護者と児童生徒の80%以上が、食事や睡眠時間に留意して、健康的な生活を送っていると答えている。	・(お子さん、あなたは)食事や睡眠時間に気を付けて、健康的な生活を送っていますか。	B	A		引き続き、長期休業中の生活チェックを行っていく。また、保健分野の学習の中で、生活習慣を振り返る機会を意図的に設けていく。
				学校の80%以上が、学校医、学校歯科医、栄養士、保健師等との連携を密にして、保健・健康教育を充実させていると答えている。	・学校は、学校医、学校歯科医、栄養士、保健師等との連携を密にして、保健・健康教育を充実させていますか。			A	
	10	体力・精神力の向上	効果的な少人数指導を探り、学年の枠を取り払った体育科授業の充実を図るとともに、計画的・系統的な実践を通して体力・精神力の向上、運動に親しむ態度の育成を目指す。 体力向上プランの組織的な取組に努める。	保護者と児童生徒、学校の80%以上が、児童生徒は運動（体育や部活動を含む）や地域のスポーツ活動などに進んで取り組んでいると答えている。	・(お子さん、あなたは)学校や家庭、地域で、積極的に運動に取り組んでいますか。	B	A		学年通信やWEBページ、インスタグラム等で児童生徒が運動に親しむ様子や体育や部活動の様子を積極的に発信していく。
				学校の80%が、体力向上プランの組織的な取組により、児童生徒が運動に親しんでいると答えている。	・学校は、体力向上プランの組織的な取組により、児童生徒を運動に親しませていますか。			A	
組織的で活力ある学校づくり	11	健康で、協調性と向上心のある職場作り	互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努める。	学校の80%以上が、互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努めると答えている。	・学校職員は、互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努めていますか。			A	当初の方策を継続して実施していくとともに、職員が講師となり、自身が出た研修内容や得意分野について数分間のミニ研修会を定期的開催、全員が教える側、教わる側を経験することで、互い当初の方策を継続して実施していくとともに、マニュアル作成と共有、共通の業務（行事の準備、成績処理、備品管理など）について、手順をマニュアル化し、教職員間で共有。これにより、担当者が変わってもスムーズに業務を引き継げる体
			業務の改善や効率化、行事精選等の視点から校務を見直し、全職員のワークライフバランスを考えた働き方改革を推進する。	学校の80%以上が、業務の改善や効率化、行事精選等の視点から校務を見直し、ワークライフバランスを考えた働き方改革を推進していると答えている。	・学校職員は、業務の改善や効率化、行事精選等の視点から校務を見直し、ワークライフバランスを考えた働き方改革を推進していますか。			A	
	12	規律ある職場作り	服務規律の確保を徹底する。	学校の80%以上が、服務規律の確保を徹底していると答えている。	・学校職員は、服務規律の確保を徹底していますか。			A	
安全で安心な学校づくり	13	安全管理の徹底と防災教育の充実	学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努める。	保護者と児童生徒、学校の80%以上が、学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努めていると答えている。	・校舎の中や校庭、通学路は安全だと思いますか。	B	A		定期点検により校舎、校庭、通学路の安全確保に努め、危険箇所についてはアンケート等の実施・把握を行い、全体周知や改善措置を講じる。
			学校施設整備や通学路の安全点検を徹底し、問題点への迅速な対応に努める。		・学校は、校内や通学路の安全確保に努めていますか。			A	
			常に危機意識をもちながら安全教育を充実させ、より実践的な避難訓練等を継続して、児童生徒とともに教職員も自己危機回避能力、自己安全管理能力のさらなる向上を目指す。	保護者・児童生徒、学校の80%以上が、避難訓練等により、自己の危機回避能力、自己安全管理能力を高めていると答えている。	・(お子さん、あなた、児童生徒は)登下校時や学校生活で、安全に過ごすために気を付けていますか。	A	A	A	引き続き、児童生徒と教職員の危機回避能力、安全管理能力の向上を図る。
地域とともにある信頼される学校づくり	14	地域に貢献する活動	地域行事への積極的な参加、ボランティア活動等を通して総合的な学習の時間や生活科の学習を充実させながら、地域の自然・歴史・文化への関心と誇りをもたせ、将来までつながる郷土愛を育む。	保護者・児童生徒、学校の80%以上が、学校と地域とが協力することで、南牧村に関心を持ち、郷土愛が育まれていると答えている。	・(お子さん、あなた、児童生徒は)学校の地域と協力した活動により、南牧村に対する郷土愛が育っていますか。 ・あなたは、生活科や総合的な学習の時間で学習したことから、南牧村のことを知ることができましたか。【前】	B	A	A	地域学習での取組を、保護者や地域の方に紹介する有効な手段を考えて積極的に発信していく。また、学校公開日などを活用し、行った活動を紹介し知ってもらう。
	15	地域とともに作る学校教育	コミュニティースクールを基盤として、学校運営協議会との連携を強化し、学校・家庭・地域間の協働態勢を確立することで、義務教育9年間を見据えた一貫性のある教育課程の在り方を具現化する。	学校の80%以上が、コミュニティースクールを基盤とし、義務教育学校としての取組が充実したものになっていると答えている。	・学校は、コミュニティースクールを基盤とし、義務教育学校としての充実した取組を進めていますか。			A	学校運営協議会の様子を、職員に発信し全職員で情報を共有して取組を進めていく。
			学校Webページや各種通信等により、積極的な情報発信に努める。	保護者・児童生徒、学校の80%以上が、学校はWebページや各種通信等により、積極的な情報発信に努めていると答えている。	・Webページや各種通信等で、学校のことがわかりやすく伝わっていますか。 ・学校は、Webページや各種通信等により、積極的な情報発信に努めていますか。	B	A	A	引き続き、WEBページや各種通信等を活用し、家庭・地域に積極的な情報発信を行っていく。